

1. 日 時 令和3年7月30日（金）午後6時00分～午後7時00分

2. 出席者

豊泉会長、白川副会長、和田委員、稲葉委員、小坂委員、太田委員、坂本委員、内野委員

3. 報 告

1) 事業報告、事業予定について

事務局より資料1-1「歴史民俗資料館・古民家園来館者数一覧」、5月から7月までの事業報告資料1-2「歴史民俗資料館・古民家園事業報告」、8月から10月までの事業予定資料1-3「歴史民俗資料館・古民家園事業予定」に沿って報告。

コロナウイルスの影響を受け、緊急事態宣言となったため、4月25日から5月31日まで臨時休館・休園をした。それにともない、体験学習、自然観察等の事業も中止をした。6月1日より資料館・古民家園の一般公開を再開し、入館者・団体見学・事業参加者数は人数を制限しながら運営を行っている。今後も感染状況により、対策ガイドラインに従って事業開催したい。

2) 埋蔵文化財調査及び調査報告書について

事務局より、5月から7月までに現地調査を行った資料2「埋蔵文化財調査報告」に沿って報告。立川市と国立市の市境・向郷遺跡で大規模な宅地造成があり、試掘確認調査を行ったが、重要な遺物・遺構等は発見されなかった。開発地の東側は国立市であり、同様に国立市が試掘を行ったが、縄文土器が数点出土したのみとのことだった。

3) 市指定史跡「柴崎分水」現状変更について

事務局より、資料3「柴崎分水現状変更」に沿って報告。

柴崎町4丁目、上下水道の付設工事を行うとのこと。施工部分は水路の地下であり、外観の変化は現れない施工を行う。C地区の管理運用基準に沿って許可をした。

4) 国宝「石幢」の保存修理事業について

事務局より報告。9月より修理事業を再開する予定で準備を進めている。新保存庫の建設については、当初8月より開始する予定であったが、併設する収蔵施設に建築指導行政から建築高に関する設計上の指摘があり、その調整で遅延の連絡を受けている。9月には工事が開始できるよう、文化庁や東京都と確認を取りながら準備をしている。全体的には、当初の計画から約1カ月程度遅れている。

委員：修理事業は順調に進んでいるのか。

事務局：修理事業は9月から美術院が京都から来て、作業を再開することになっている。

作業期間は立川市内のホテル等に数カ月滞在するが、今年はオリンピックが終わるまで宿泊施設が確保しにくい状況を鑑み、9月から修理を開始する予定である。

委員：分かりました。

2. 議 題

1) 市指定文化財の指定について

事務局より、資料4「文化財指定に関する調査・未指定文化財の現況確認について」に沿って説明。

事務局：前回に引き続き指定候補の文化財について各所有者と連絡を取り、市指定の同意を得る交渉を行っている。コロナウイルス等の影響もあり、調査等が進んでいないが、今後も所有者の意向を確認しながら説明をしていきたい。

石造物について、資料館元職員が市内の石造物を調査して「立川市石造物台帳」を作成し、その台帳をお借りした。個人で悉皆調査をしているもので、市内の石塔や墓石、記念碑、慰霊碑などを4～5冊に記録化している。この中に、石造物として市指定になりうる資料があるかもしれないので、外出がままならない今般の情勢でもあり、今後の調査にこの資料を役立てていきたい。

また、近代建築では構造物等についても資料収集の調査を行っていきたい。

自然については、平成6年に立川市内の動植物をリスト化した「自然調査報告書」というものを策定しているが、一般向けの読み物として平成9年に「みちくさミュージアム」を出版している。当時から比べると、現在は街も発展し、動植物をとりまく環境も大きく変わった。自然についても、どのように調査をしていくのか検討したい。東京都が20年以上前に調査をした近代和風建築については、市内に3棟あり、そのうち1棟は国登録有形文化財に指定されているが、残り2棟については追跡調査等行っていないため、今後保護の方法について検討を開始する時期が来たと考えている。

委員：資料の柴崎町S邸は、普済寺の仏殿があった場所で、遺跡発掘調査をすればいろいろな成果がある場所と考える。大正14年に普済寺前代の和尚別邸として建築された建物で、現在も建築構造や内装を留めている。しかし、劣化により屋根瓦のほか修繕したくても当時と同じ部材が無かったり、修理する大工がなかなかいなかったりとコスト的にも苦慮していると聞く。住人はいるが、土地は寺院が所有しているので、寺院と協議が整わないと大規模な修繕等は難しいという課題があると聞いている。

委員：砂川の五日市街道に面した旧家の土蔵が多くあることで、以前テレビ局から取材があったが、利用されていないものが多く、番組にならなかったことがある。100件近くあっても、土蔵を利活用したことができないこともあって、維持管理も難しく、かなり減ってきている。建物のほか、昔からの景観維持も含めて考えてほしい。

委員：近代和風調査を行った柴崎町K邸の土蔵も立派である。そのような建築物に写真を撮影している個人の方もいるので、そのような映像を活かすことも一考してほしい。

次回開催予定：令和3年10月22日（金）午後6時～